
クレヨン

AzURe

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クレヨン

【Nコード】

N1264A

【作者名】

Azure

【あらすじ】

変わらない、毎日。ただどアタナと一緒に過ごせる幸せ。それだけで満たされるよ。そんな日常のお話。

どんな色も柔らかくなるもの……クレヨン。
アタシの中では、そう定義されている。

「……なあ、リサ。さっきから何やってんの？」
久しぶりの休み。

有り得ない位忙しい進学校に通うアタシたちは、ゆったりと家にいた。

お喋りしながらご飯食べて、ゲームして。
そして今現在。

アタシの隣には彼氏のレイジ。
ベッドの上に座って足をブラブラさせてる。

「俺、一人で暇なだけ……」
「もう少し、待って……出来上がるから。」

当のアタシはお気に入りのスケッチブックにクレヨンを走らせる。
ずーっと書いてたから手はいろんな色に染まってる。赤、ピンク、

緑、青、黄、黒……。

「何の絵描いてるの？教えてよ……!!」

「アタシの目の前にいて、ベッドの上で足をブラブラさせてる男の絵。」

「え、俺？見せて見せて!!」

「まだだからダメ。」

チエツ……そんな声が聞こえる。

と、同時くらいに開いた窓からザァッ……　　と風が吹き込む。
カーテンが揺れる。

レイジのオレンジ色の髪が、夕陽に照らされキラキラとなびく。
ある種の幻覚にも見えたその光景。

それを掻き消すように、アタシは絵を描き続ける。

そして……

「…出来た」

「どれどれ… うわあ〜、すげえ!!!!!!」

スケッチブックには色とりどりのクレヨンで描かれたレイジ。
枕を抱え、柔らかく笑っている。

「リサ、凄すぎ!!!」

ちよつとした叫び声を上げたレイジ。

「そんな事無いよ。」

「だってこんな短時間で、しかもクレヨンだぜ? 凄いよ!!!!!!」
本当に嬉しそうに言う。

そんな彼にアタシはこう答えた。

「レイジを描くときは… クレヨンで描きたかったの。」

「なんでさ?」

「レイジの良いところが出るからだよ。」

それがどんな所かを言わなくても、レイジは分かる。

「… そっか。ありがとな。」そして彼はちよつと顔を赤らめながら、絵の中に描いてあるように柔らかく笑う。

アタシはその姿を見ると、とっても嬉しくなる…。

つい、顔がニヤけてしまうくらいに。

「ん? どした? そんな嬉しそうな顔して。」

「ひみつ——。」

どんな色も柔らかくなるクレヨン。

そして、どこかアナタの微笑みに似ているクレヨン。

クレヨン、Fin

（後書き）

はじめまして、A z U R eと言います。今回はこの話を読んで頂き
アリガトウゴザイマス
いかがでしたか？これを読んで小さな幸せを思い出してくれたりす
ると嬉しいです。

この話は短篇ですが、この二人そのうちまた登場するかも知れませ
ん 笑 関連しない話 になるとは思いますが（＊、艸、）

感想・批評など頂けると喜びます。
では、また。

A z U R e

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1264a/>

クレヨン

2011年1月6日14時14分発行